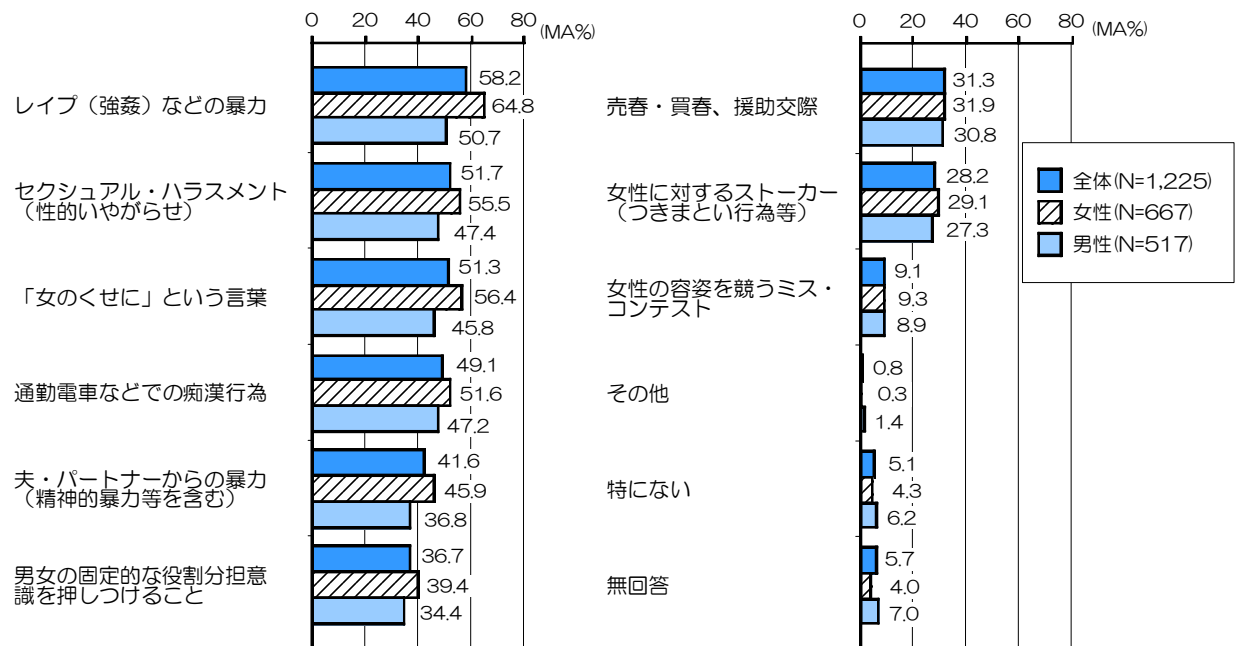


7 女性の人権について

7-1 女性の人権が尊重されていないと思うこと

問31 女性の人権が尊重されていないと思うものは、次のどれですか。(あてはまるもの全てに○印)

図7-1 女性の人権が尊重されていないと思うこと



《ポイント》

○全ての項目で女性の方が割合が高く、「レイプ (強姦) などの暴力」で女性は6割以上、男性でも半数を超えている。

女性の人権が尊重されていないと思うことについて、全体では「レイプ (強姦) などの暴力」が58.2%と最も高く、次いで、「セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」が51.7%、「「女のくせに」という言葉」で51.3%と半数を超えている。

性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が高く、「レイプ (強姦) などの暴力」で14.1ポイント、「女のくせに」という言葉」で10.6ポイント、「夫・パートナーからの暴力 (精神的暴力等を含む)」で9.1ポイント、「セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」で8.1ポイントいずれも女性の方が高くなっている。(図7-1)

表7-1-1 性年齢別 女性の人権が尊重されていないと思うこと

	全体	レイプ (強姦) などの暴力	セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	女のくせに」という言葉	通勤電車などでの痴漢行為	夫・精神的暴力等(を含む)	男を押しつける固定的な役割分担意識	売春・買春、援助交際	女性に対するストーカー (つきまとい行為等)	女性の容姿を競うミス・コンテスト	その他	特になし	(MA%) 無回答
女性													
20歳代	76	73.7	68.4	75.0	64.5	46.1	46.1	26.3	26.3	13.2	0.0	1.3	1.3
30歳代	117	74.4	68.4	56.4	61.5	61.5	46.2	31.6	29.1	7.7	0.9	4.3	0.0
40歳代	118	66.9	61.0	55.1	57.6	44.1	42.4	35.6	22.9	10.2	0.8	2.5	3.4
50歳代	125	66.4	53.6	52.8	51.2	44.8	41.6	36.8	33.6	7.2	0.0	2.4	4.0
60歳代	147	57.8	45.6	53.1	36.7	40.1	30.6	24.5	25.9	6.1	0.0	5.4	5.4
70歳以上	83	50.6	38.6	51.8	44.6	38.6	32.5	38.6	39.8	15.7	0.0	10.8	10.8
男性													
20歳代	50	52.0	44.0	60.0	48.0	32.0	28.0	22.0	24.0	2.0	4.0	8.0	6.0
30歳代	61	63.9	60.7	47.5	60.7	37.7	37.7	32.8	23.0	8.2	4.9	3.3	3.3
40歳代	69	55.1	42.0	46.4	47.8	34.8	37.7	23.2	20.3	8.7	2.9	2.9	10.1
50歳代	98	52.0	54.1	39.8	48.0	42.9	42.9	31.6	31.6	11.2	0.0	8.2	2.0
60歳代	119	46.2	46.2	41.2	46.2	37.0	37.8	31.9	27.7	6.7	0.0	6.7	5.9
70歳以上	120	44.2	40.8	48.3	40.0	34.2	23.3	35.8	30.8	12.5	0.0	6.7	12.5

《ポイント》

- 全体的に女性では、女性の人権が尊重されていないと思うことについて、若年層ほど割合は高く、「レイプ（強姦）などの暴力」は20～30歳代で7割を超えている。
- 男性でも若年層で割合は高く、特に多くの項目で30歳代の割合が高い。

性年齢別にみると、女性は、ほとんどの項目で年代が下がるほど割合は高く、特に、「レイプ（強姦）などの暴力」では20、30歳代、「女のくせに」という言葉」では20歳代が7割を超えている。男性の場合も、若年層の方が割合は高く、特に、「レイプ（強姦）などの暴力」、「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」、「通勤電車などでの痴漢行為」では30歳代が、「女のくせに」という言葉」では20歳代が6割以上となっている。（表7-1-1）

表7-1-2 居住地域別 女性の人権が尊重されていないと思うこと

	全体	レイプ (強姦) などの暴力	セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	女のくせに」という言葉	通勤電車などでの痴漢行為	夫・パートナーからの暴力 (精神的暴力等を含む)	男女の固定的な役割分担意識を押しつけること	売春・買春、援助交際	女性に対するストーカー つきまとい行為等)	女性の容姿を競うミス・コンテスト	その他	特にな	無回答
--	----	----------------------	----------------------------	-------------	--------------	-----------------------------	-----------------------	------------	--------------------------	------------------	-----	-----	-----

女性

和歌山市	216	67.6	57.9	57.4	51.9	48.6	43.1	33.8	28.2	8.8	0.5	6.5	3.2
海南市・紀美野町	54	61.1	59.3	48.1	50.0	37.0	44.4	27.8	24.1	9.3	0.0	3.7	1.9
岩出市・紀の川市	75	58.7	54.7	68.0	41.3	42.7	42.7	30.7	18.7	8.0	0.0	0.0	6.7
橋本市・伊都郡	64	71.9	62.5	65.6	67.2	48.4	43.8	39.1	42.2	17.2	1.6	0.0	3.1
有田市・有田郡	52	73.1	57.7	50.0	59.6	55.8	38.5	32.7	26.9	9.6	0.0	1.9	3.8
御坊市・日高郡	62	59.7	45.2	46.8	45.2	41.9	30.6	21.0	30.6	11.3	0.0	4.8	6.5
田辺市・西牟婁郡	85	57.6	54.1	54.1	48.2	35.3	36.5	30.6	34.1	5.9	0.0	4.7	5.9
新宮市・東牟婁郡	58	65.5	46.6	53.4	51.7	56.9	27.6	36.2	27.6	6.9	0.0	8.6	1.7

男性

和歌山市	153	49.7	45.8	39.9	47.7	38.6	31.4	32.0	25.5	7.2	2.0	3.9	7.8
海南市・紀美野町	54	57.4	63.0	59.3	48.1	51.9	38.9	33.3	37.0	11.1	0.0	5.6	1.9
岩出市・紀の川市	63	52.4	36.5	47.6	49.2	38.1	39.7	31.7	25.4	7.9	0.0	4.8	12.7
橋本市・伊都郡	60	38.3	40.0	48.3	36.7	33.3	33.3	25.0	25.0	8.3	1.7	6.7	10.0
有田市・有田郡	34	50.0	41.2	50.0	41.2	29.4	35.3	23.5	26.5	8.8	0.0	8.8	5.9
御坊市・日高郡	44	59.1	54.5	52.3	52.3	29.5	36.4	34.1	27.3	9.1	4.5	6.8	2.3
田辺市・西牟婁郡	65	56.9	49.2	44.6	56.9	38.5	33.8	38.5	30.8	10.8	1.5	3.1	4.6
新宮市・東牟婁郡	42	45.2	57.1	35.7	42.9	26.2	31.0	19.0	23.8	11.9	0.0	16.7	7.1

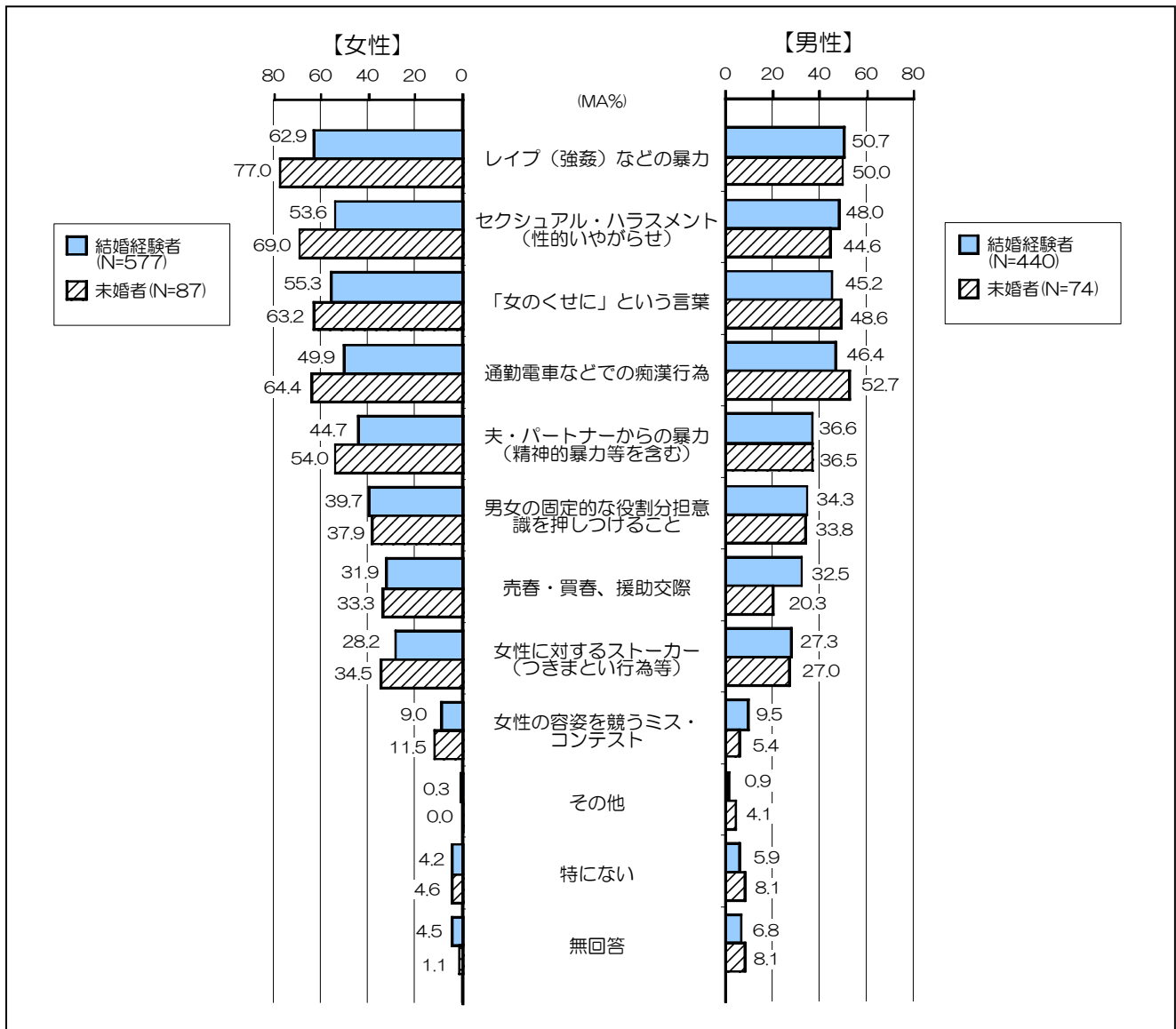
《ポイント》

- 女性では「岩出市・紀の川市」を除いた全ての地域で、「レイプ（強姦）などの暴力」と回答した人の割合が最も高い。
- 「岩出市・紀の川市」では、女性で「女のくせに」という言葉」と回答した人の割合が最も高い。
- 男性でも多くの地域で「レイプ（強姦）などの暴力」と回答した人の割合が高いが、「海南市・紀美野町」、「新宮市・東牟婁郡」では「セクシュアル・ハラスメント」と回答した人の割合が最も高い。

居住地域別にみると、女性では、「岩出市・紀の川市」を除く全ての地域で「レイプ（強姦）などの暴力」と回答した人の割合が最も高くなっている。その他、「岩出市・紀の川市」では、「女のくせに」という言葉」が 68.0%と最も高く、「橋本市・伊都郡」では「通勤電車などでの痴漢行為」と回答した人の割合が 67.2%、「新宮市・東牟婁郡」では「夫・パートナーからの暴力（精神的暴力等を含む）」と回答した人の割合が 56.9%と高い。男性では、多くの地域で「レイプ（強姦）などの暴力」と回答した人の割合が高いが、「海南市・紀美野町」では「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と回答した人の割合が 63.0%、「田辺市・西牟婁郡」では「通勤電車などでの痴漢行為」が 56.9%と高くなっている。

(表7-1-2)

図7-1-3 結婚の有無別 女性の人権が尊重されていないと思うこと



《ポイント》

- 女性では、全体的に未婚者の方が、女性の人権が尊重されていないと思うことについての割合は高い。
- 男性では、「通勤電車などでの痴漢行為」で未婚者、「売春・買春、援助交際」では結婚経験者の方が割合は高い。

結婚の有無別にみると、女性では、上位5項目まで未婚者の方が割合は高く、「レイプ (強姦) などの暴力」で 14.1 ポイント、「セクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」で 15.4 ポイント、「通勤電車などでの痴漢行為」で 14.5 ポイントと差が大きくなっている。男性では、全体的に、結婚の状況によって大きな差は見られないが、「通勤電車などでの痴漢行為」では未婚者の方が 6.3 ポイント高く、「売春、買春、援助交際」では 12.2 ポイント結婚経験者の方が高くなっている。(図7-1-3)

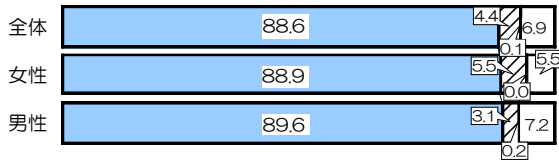
7-2 暴力と思考行為

問32 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（①～⑬の項目それぞれについて1つだけに○印）

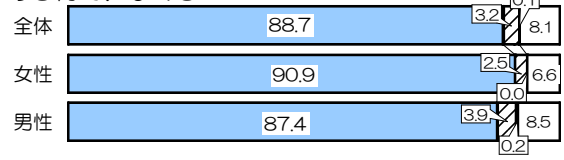
全体 1,225件
女性 667件
男性 517件

図7-2 暴力と思考行為

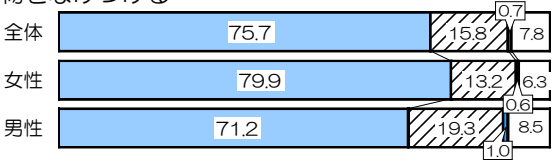
①刃物などを突きつけて、おどす



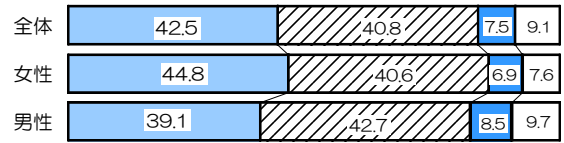
②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる



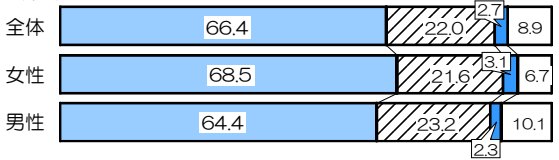
③平手でぶつ、足でける、物をなげつける



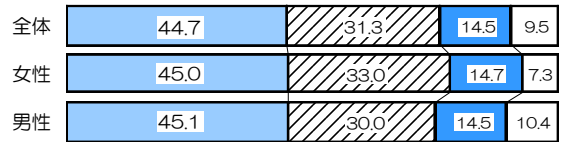
④なぐるふりをしておどす



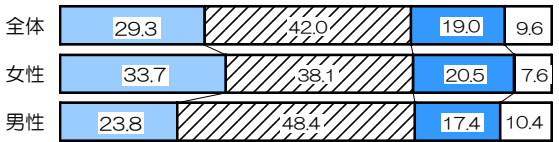
⑤いやがるのに、性的な行為を強制する



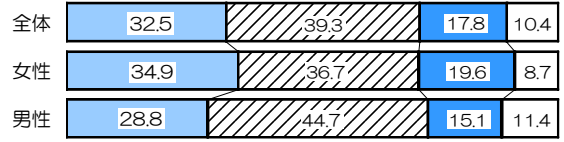
⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



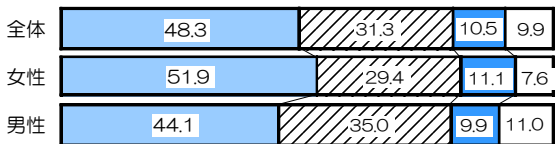
⑦何を言っても、無視し続ける



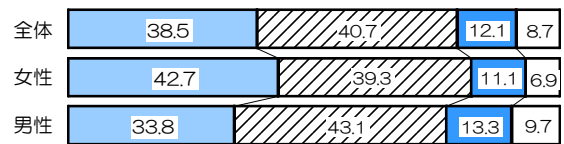
⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



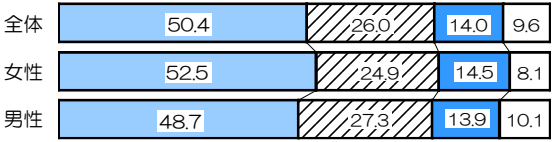
⑨「誰のおかげで生活できるのか」「かいしょうなし」などと言う



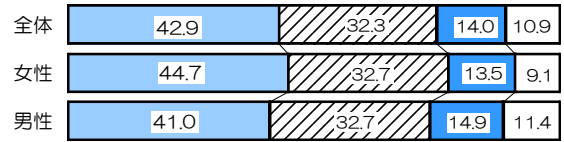
⑩大声でどなる



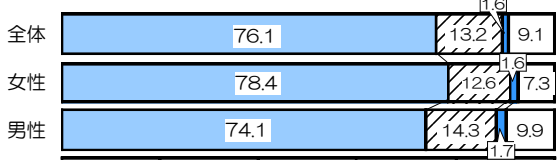
⑪生活費を渡さない



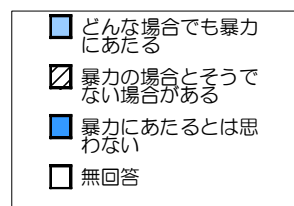
⑫避妊に協力しない



⑬子どもに危害を加えると言っておどす



0 20 40 60 80 100 (%)



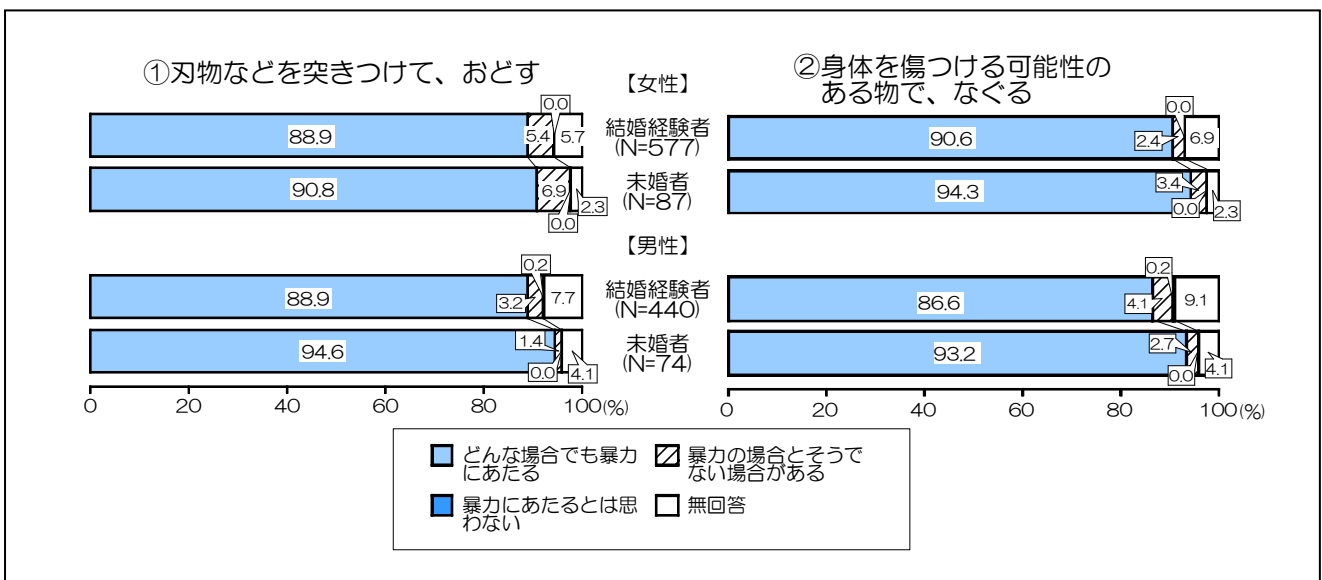
《ポイント》

- 「刃物などを突きつけて、おどす」、「身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」では8割の人が「どんな場合でも暴力にあたる」と考えている。
- 多くの項目で「どんな場合でも暴力にあたる」、「暴力の場合とそうでない場合がある」と意見が分かれるが、「なぐるふりをしておどす」、「何を言っても、無視し続ける」、「大声でどなる」では「暴力の場合とそうでない場合がある」という意見が多い。
- 男性は多くの項目で未婚者の方が「どんな場合でも暴力にあたる」とする人の割合が高いが、「何を言っても、無視し続ける」、「交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」等では結婚経験者の方が割合は高い。(図7-2-1)

暴力と思う行為について、全体では、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した人の割合は、「①刃物などを突きつけて、おどす」で88.6%、「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」で88.7%と高く、次いで、「③子どもに危害を加えると言っておどす」が76.1%、「③平手でぶつ、足でける、物をなげつける」が75.7%となっている。「暴力にあたるとは思わない」は「⑦何を言っても、無視し続ける」で19.0%と最も高く、次いで、「⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」で17.8%、「⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」で14.5%といずれも1割台にとどまっている。

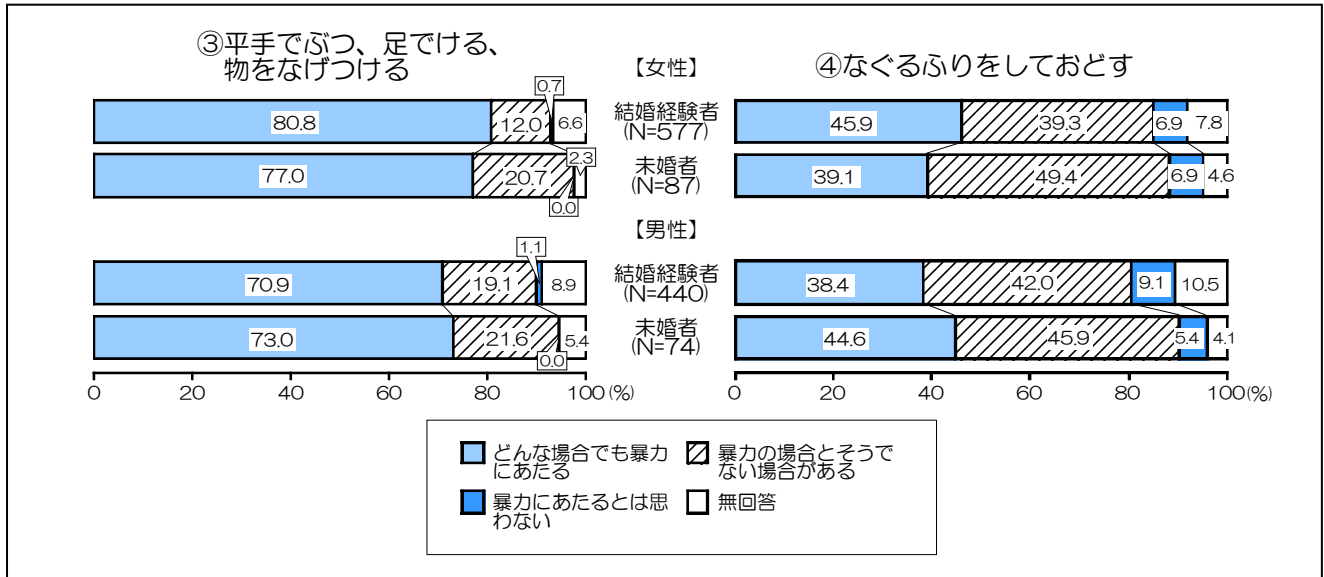
性別にみると、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたる」は女性の方が高く、「⑦何を言っても、無視し続ける」で9.9ポイント、「⑩大声でどなる」では8.9ポイント、「③平手でぶつ、足でける、物をなげつける」で8.7ポイント女性が高くなっている。また、「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」では女性は9割を超えている。(図7-2)

図7-2-1 結婚の有無別 暴力と思う行為



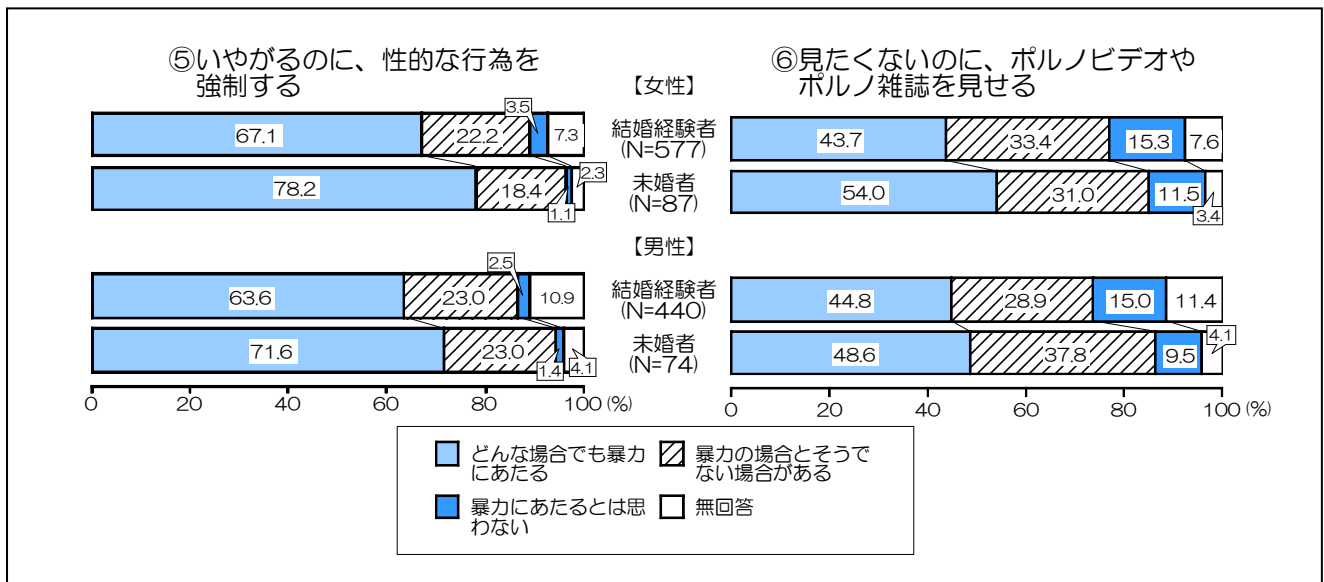
「①刃物などを突きつけて、おどす」を結婚の有無別にみると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」は未婚者の方が若干高くなっている。

「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」は男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」は未婚者の方が若干高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は女性では未婚者の方が、男性では結婚経験者の方が若干高くなっている。



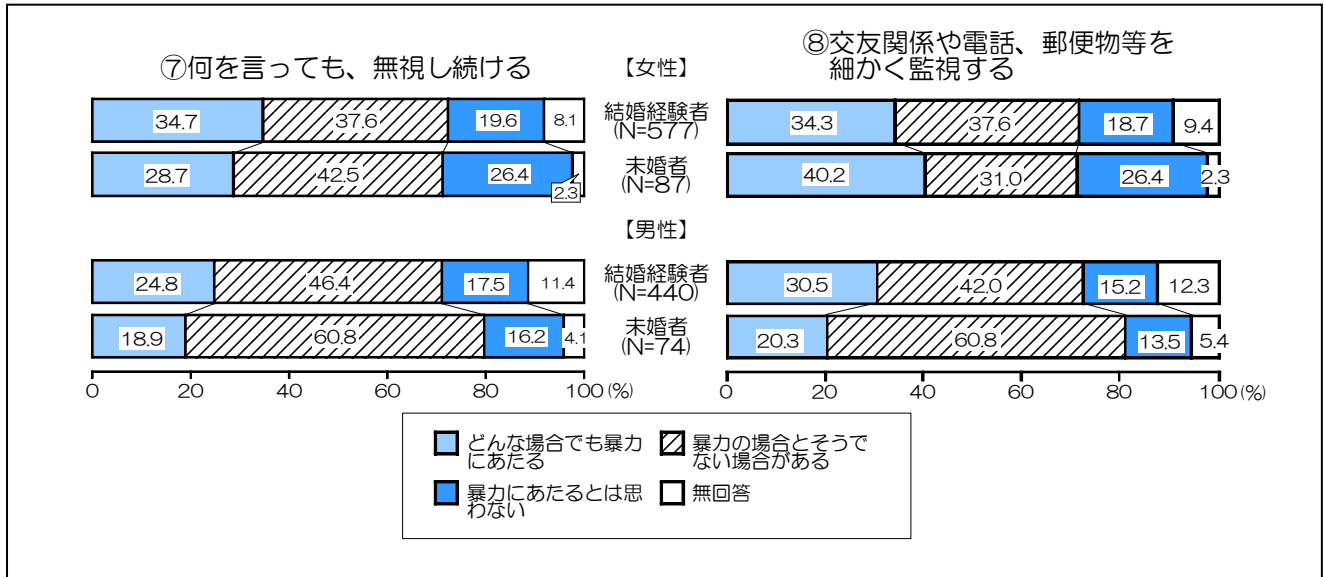
「③平手でぶつ、足でける、物をなげつける」を結婚の有無別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、女性では結婚経験者の方が若干高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」は未婚者の方が8.7ポイント高くなっている。男性では「どんな場合でも暴力にあたる」は、未婚者の方が若干高い。

「④なぐるふりをしておどす」では「どんな場合でも暴力にあたる」は女性では結婚経験者の方が、男性では未婚者の方が若干高くなっている。「暴力にあたるとは思わない」は男性では、結婚経験者の方が3.7ポイント高くなっている。



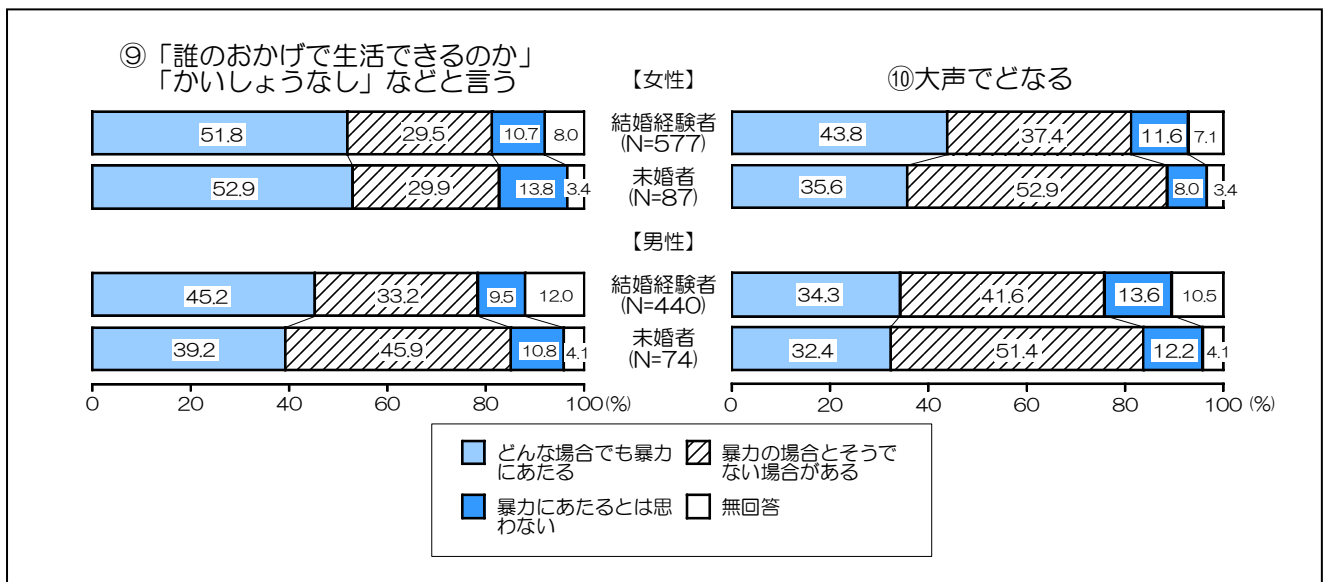
「⑤いやがるのに、性的な行為を強制する」を結婚の有無別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女とも未婚者の方が若干高く、逆に、「暴力にあたるとは思わない」は結婚経験者の方が若干高い。

「⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」では「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女とも未婚者の方が若干高くなっている。「暴力にあたるとは思わない」は男性で、結婚経験者の方が5.5ポイント高くなっている。



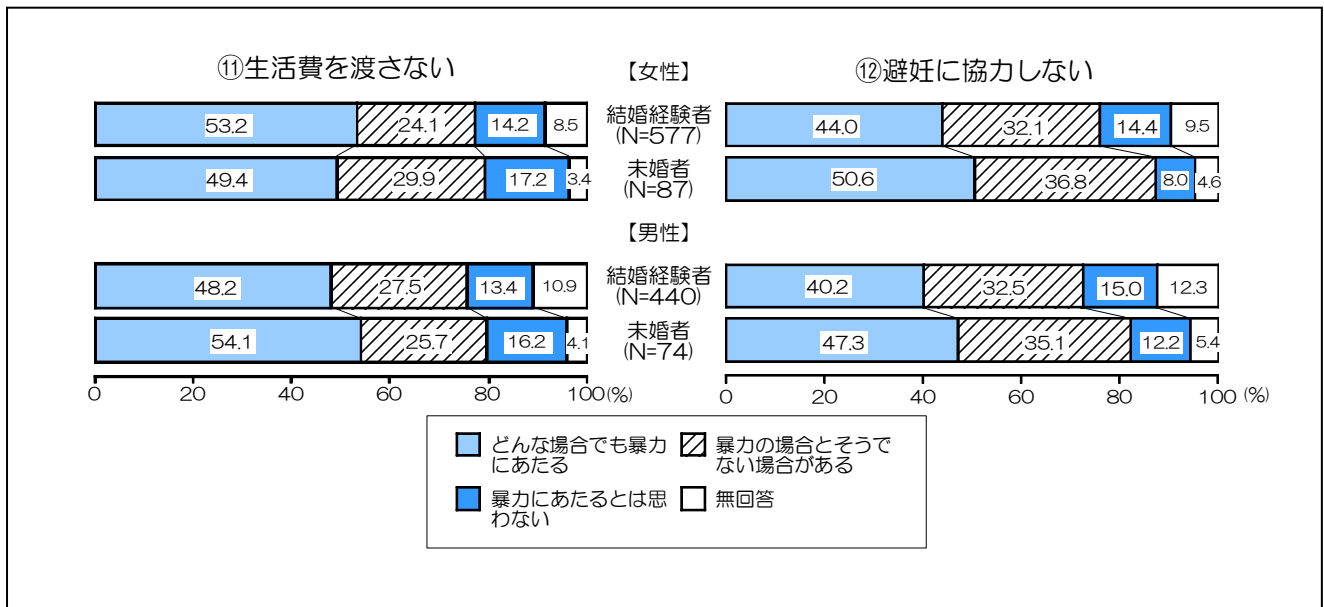
「⑦何を言っても、無視し続ける」を結婚の有無別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女とも結婚経験者の方が若干高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性で未婚者の方が14.4ポイント高く、「暴力にあたるとは思わない」は女性で未婚者の方が6.8ポイント高くなっている。

「⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」では「どんな場合でも暴力にあたる」は、女性では未婚者の方が若干高く、男性では結婚経験者の方が高くなっている。「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性で未婚者の方が18.8ポイント高く、「暴力にあたるとは思わない」は女性で未婚者の方が7.7ポイント高くなっている。



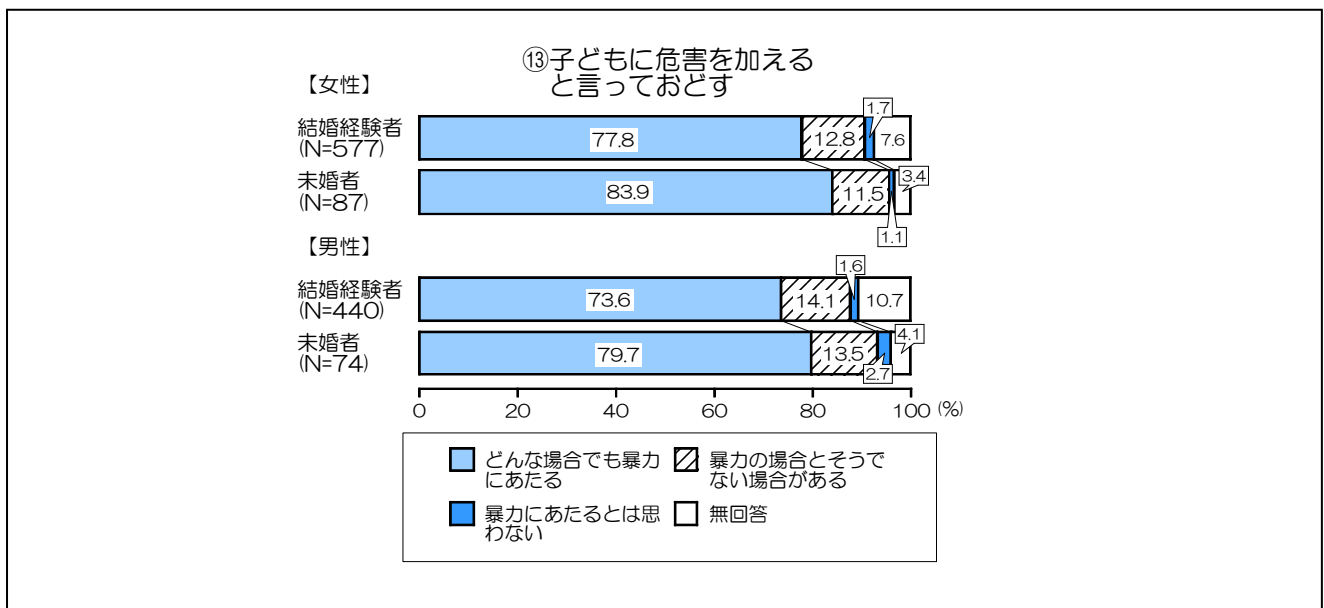
「⑨「誰のおかげで生活できるのか」「かいしようなし」などと言う」を結婚の有無別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、男性では結婚経験者の方が若干高くなっている。「暴力にあたるとは思わない」は女性では未婚者の方が3.1ポイント高くなっている。

「⑩大声でどなる」では「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女とも結婚経験者の方が若干高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」は、男女とも未婚者の方が高くなっている。「暴力にあたるとは思わない」は男女とも結婚経験者の方が若干高くなっている。



「⑪生活費を渡さない」を結婚の有無別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、男性では未婚者の方が若干高くなっている。一方、女性では「どんな場合でも暴力にあたる」は結婚経験者の方が高く、「暴力にあたるとは思わない」、「暴力の場合とそうでない場合がある」は未婚者の方が高くなっている。

「⑫避妊に協力しない」では男女とも「どんな場合でも暴力にあたる」は、未婚者の方が高く、「暴力にあたるとは思わない」は男女とも結婚経験者の方が高くなっている。

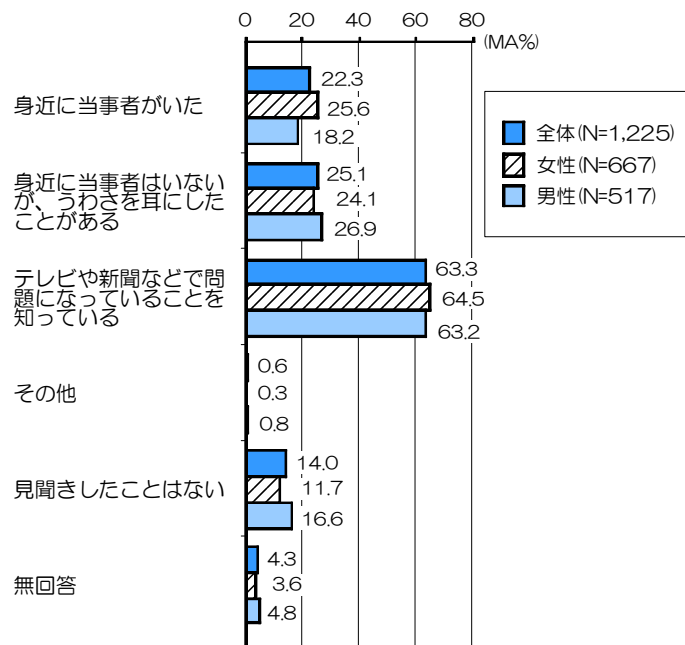


「⑬子どもに危害を加えると言っておどす」では「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女とも未婚者の方が高くなっている。

7-3 夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験

問33 あなたは、夫婦や恋人間の暴力を身近に見たり聞いたりしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○印)

図7-3 夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験



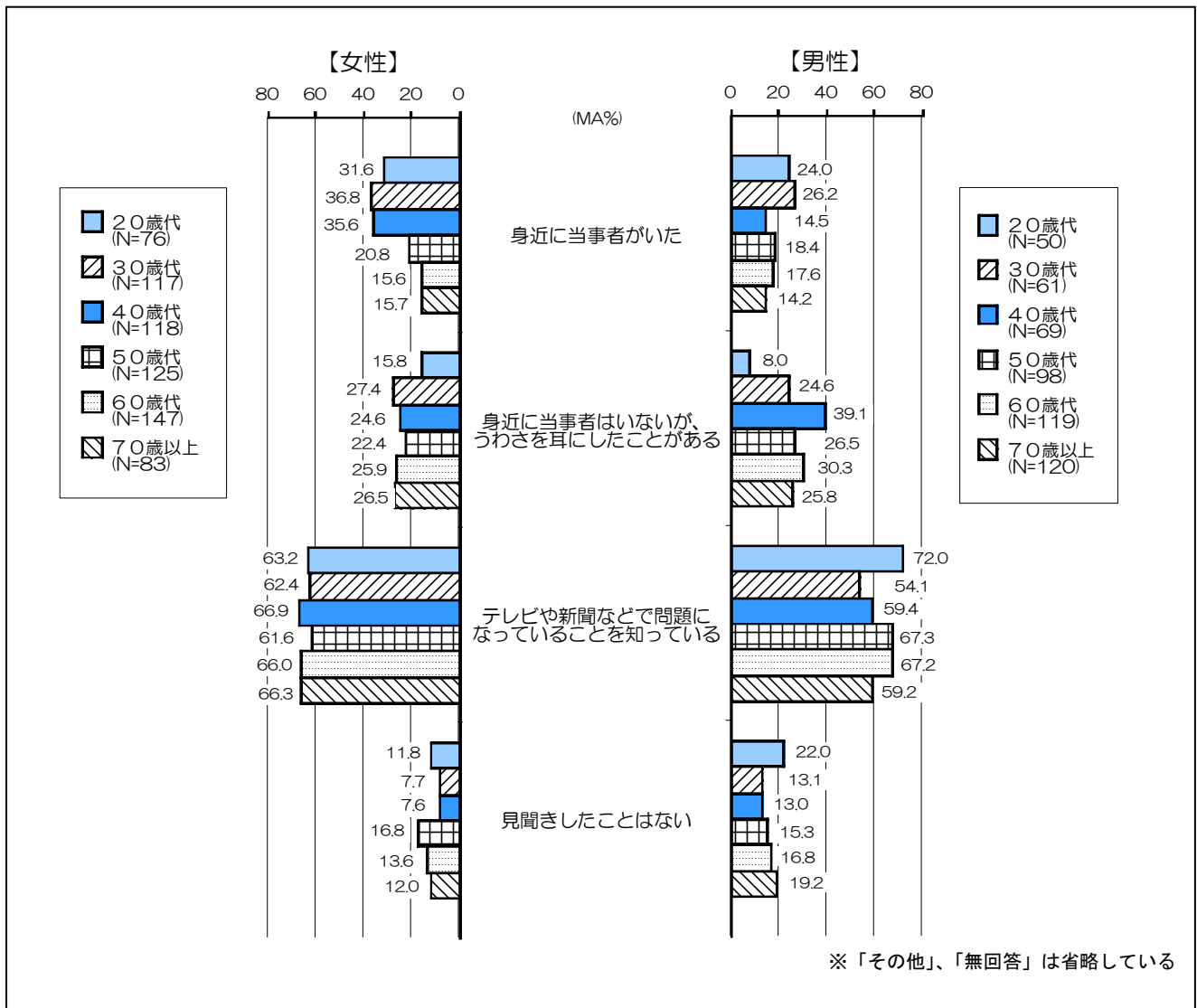
《ポイント》

- 「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」という人の割合は男女ともに、6割台と高い。
- 男女別では、「身近に当事者がいた」という項目では女性が、「見聞きしたことはない」では男性の方がそれぞれ高い。

夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験について、全体では「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」が63.3%と最も高く、次いで、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が25.1%、「身近に当事者がいた」22.3%となっている。

性別にみると、「身近に当事者がいた」は女性が25.6%、「見聞きしたことはない」では男性が16.6%で女性より高くなっている。「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」は、男性の方が高くなっている。全体的に男女差は小さい。(図7-3)

図7-3-1 性年齢別 夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験

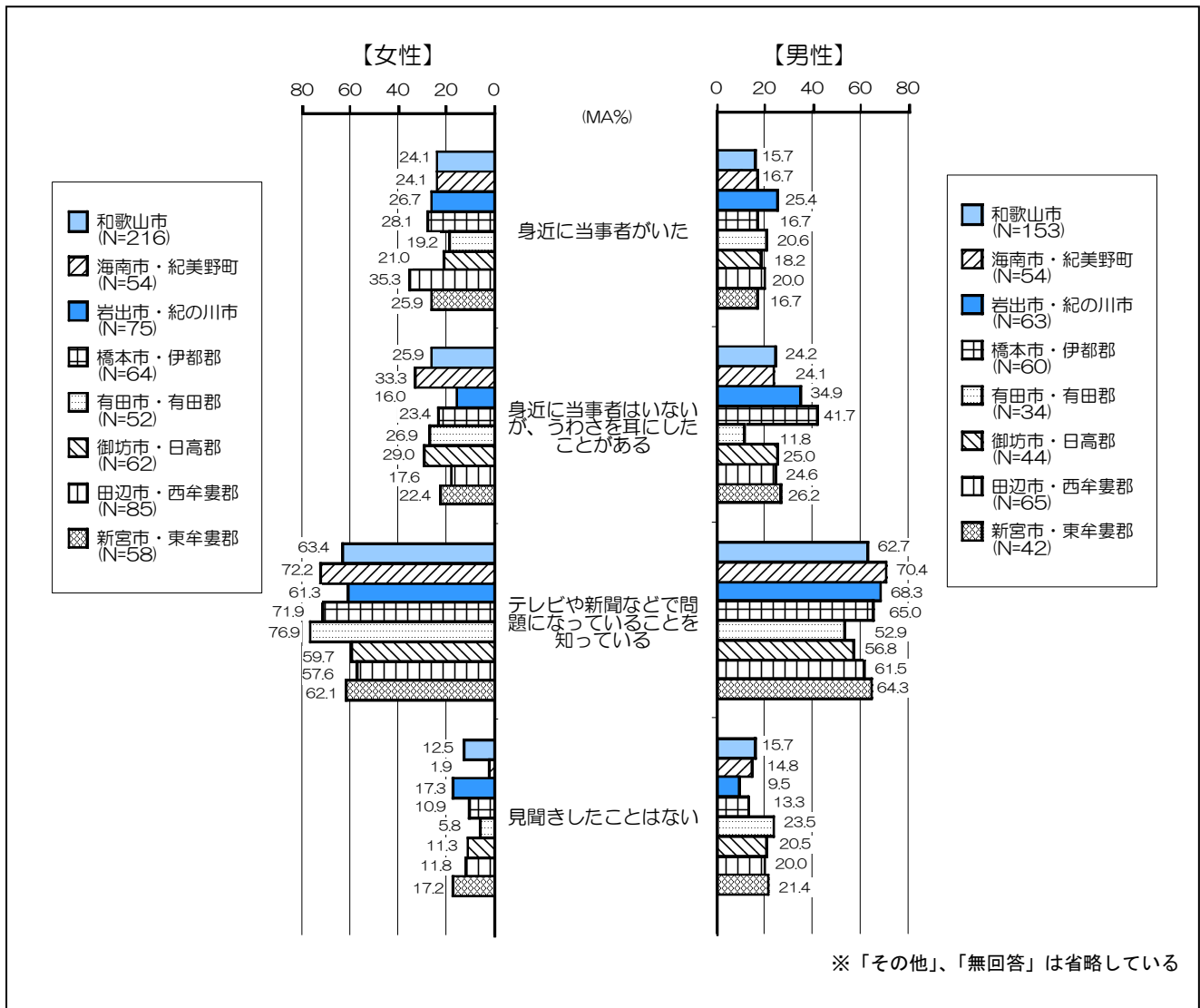


《ポイント》

- 「身近に当事者がいた」という人の割合は女性の20～40歳代で3割台と高い。
- 「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は男性の40歳代で最も高い。

性年齢別にみると、「身近に当事者がいた」という人の割合は、女性では、20～40歳代で3割以上となっている。男性でも20～30歳代で2割以上となっている。「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は、男性では40歳代で最も高く39.1%となっている。「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」は、男性では20歳代で72.0%と最も高いが、30～40歳代では5割台と低く、50～60歳代では6割台と高くなっている。一方、女性では、すべての年代において、6割以上と高くなっている。(図7-3-1)

図7-3-2 居住地域別 夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験

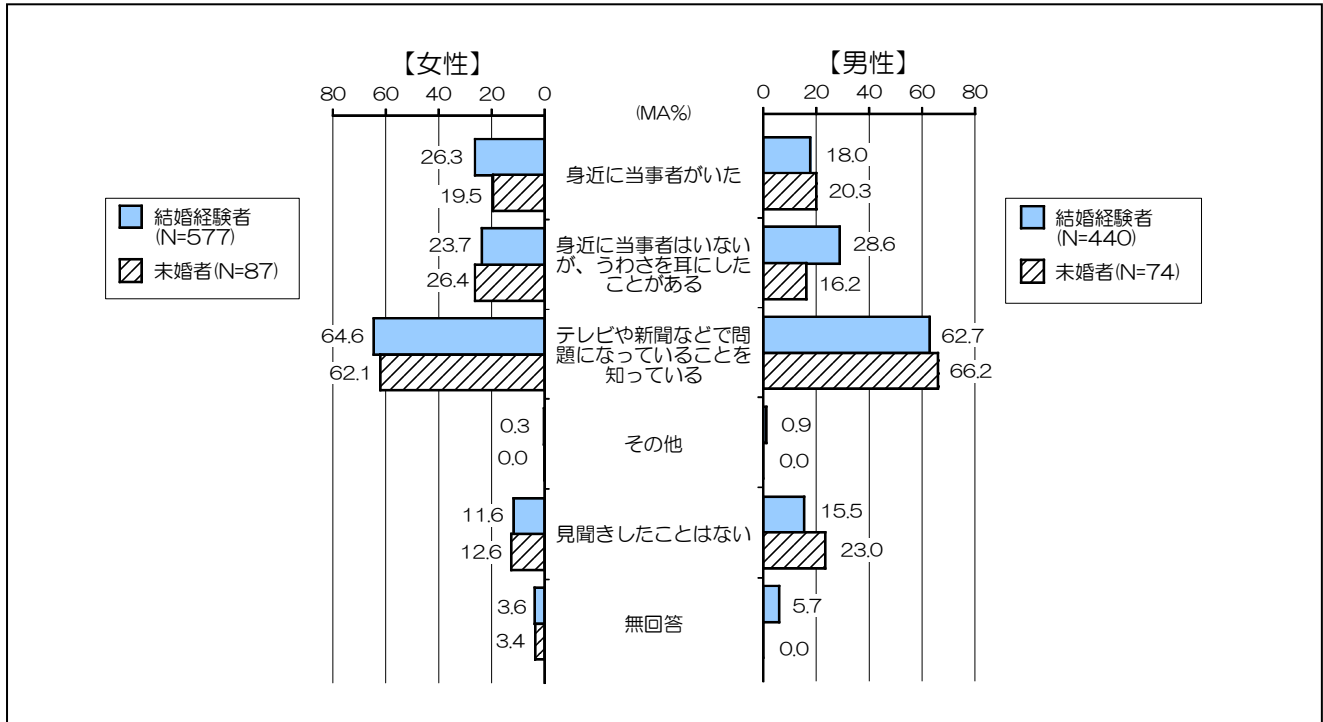


《ポイント》

- 「身近に当事者がいた」という人の割合は、女性では「田辺市・西牟婁郡」で最も高い。
- 「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は「橋本市・伊都郡」の男性で4割以上と最も高い。

居住地域別にみると、「身近に当事者がいた」という人の割合は、女性では「田辺市・西牟婁郡」で最も高く35.3%、「橋本市・伊都郡」では28.1%、「岩出市・紀の川市」で26.7%、男性では「岩出市・紀の川市」で最も高く25.4%となっている。「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は、「橋本市・伊都郡」の男性で41.7%と最も高い。「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」は「有田市・有田郡」の女性で76.9%と最も高く、男性では「海南市・紀美野町」で70.4%と最も高くなっている。(図7-3-2)

図7-3-3 結婚の有無別 夫婦や恋人間の暴力を見聞きした経験



《ポイント》

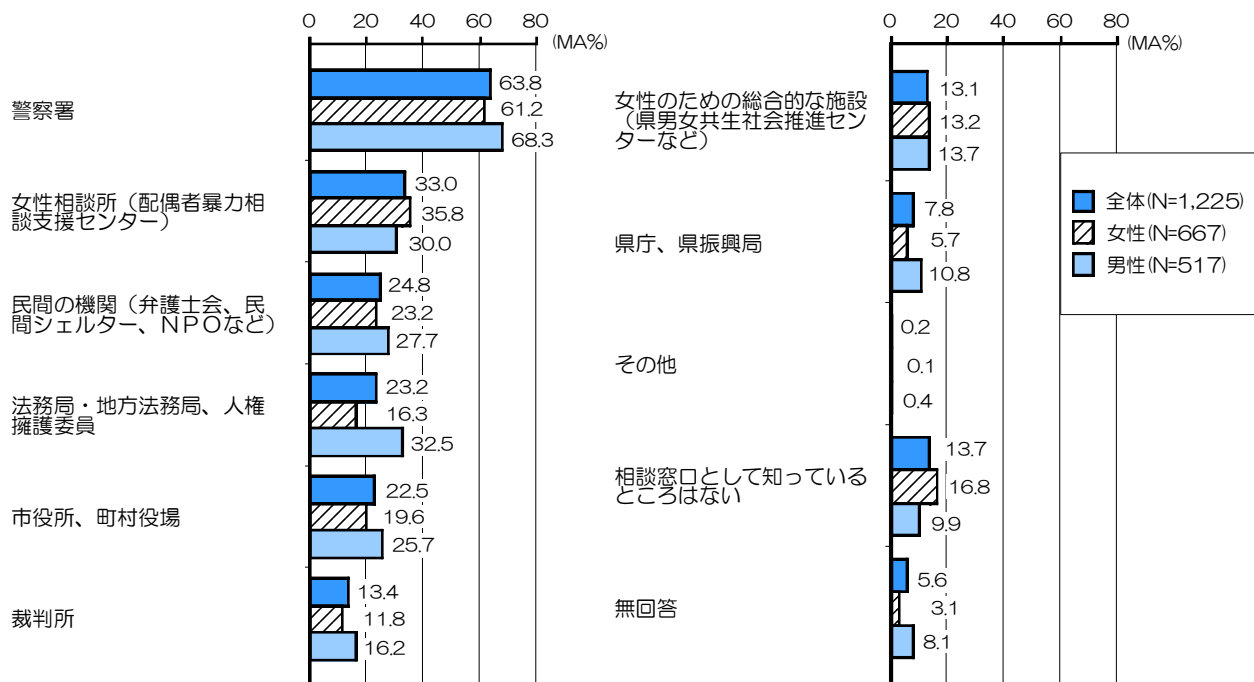
- 「身近に当事者がいた」という人の割合は、女性では結婚経験者の方が高く、男性では未婚者の方が高い。
- 男性は「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は結婚経験者の方が高く、「見聞きしたことはない」は未婚者の方が高い。

結婚の状況別にみると、女性では、「身近に当事者がいた」という人の割合は、結婚経験者の方が26.3%と未婚者より6.8ポイント高いが、その他の項目では大きな差は見られない。男性では、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」という人の割合は、結婚経験者で28.6%と、未婚者よりも12.4ポイント高いが、「見聞きしたことはない」では未婚者で23.0%と、結婚経験者より7.5ポイント高くなっている。(図7-3-3)

7-4 配偶者の暴力についての相談窓口として知っているもの

問34 あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。(あてはまるもの全てに○印) ※配偶者には、婚姻の届出をしていない「事実婚」も含み、男性・女性の別を問いません。

図7-4 配偶者の暴力についての相談窓口として知っているもの



《ポイント》

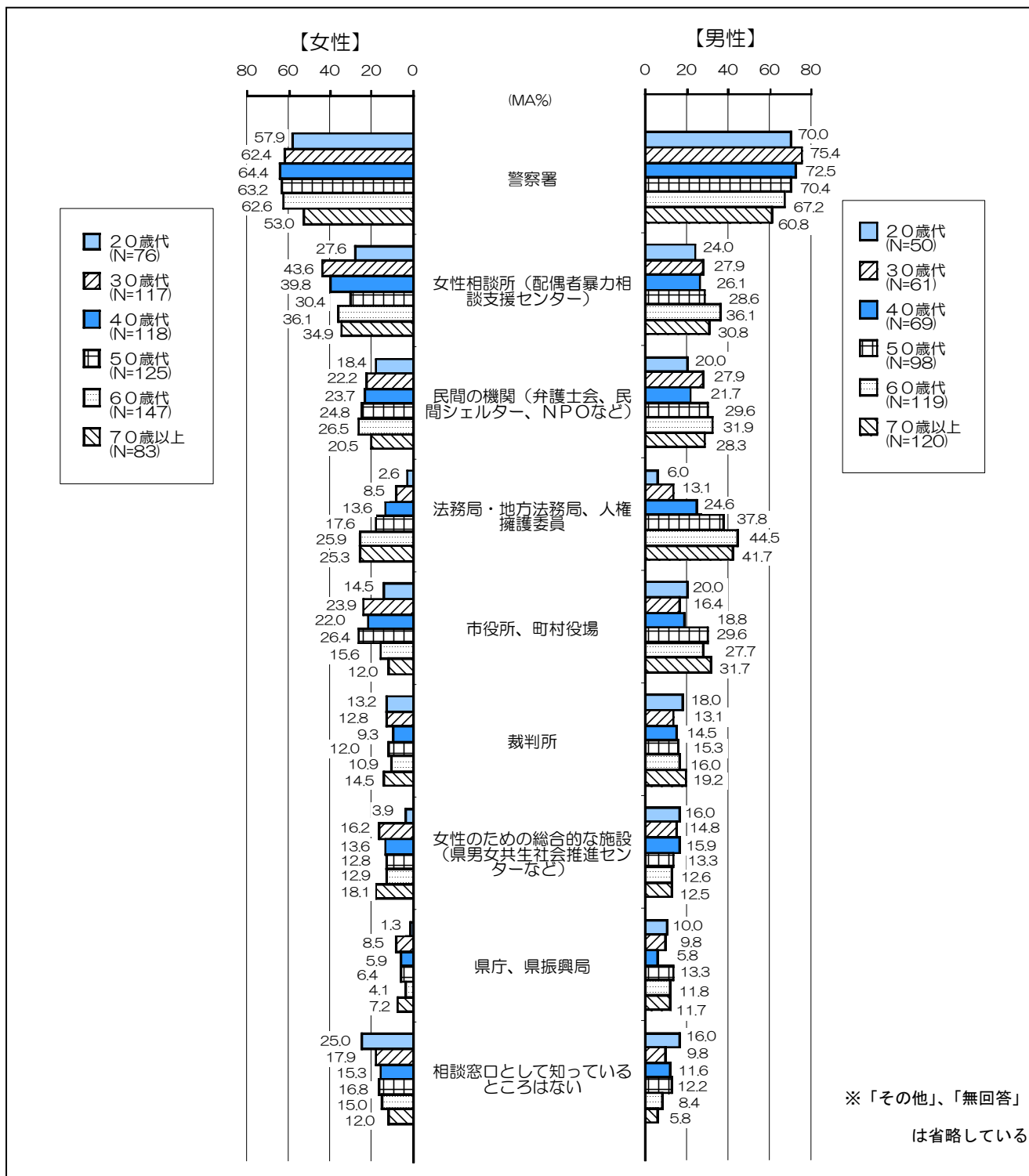
- 「警察署」が男女とも6割以上の人に認知されている。
- 「女性相談所」を除いて、認知度は男性の方が高い。

配偶者の暴力についての相談窓口として知っているものについて、全体では「警察署」が63.8%と最も高く、次いで、「女性相談所 (配偶者暴力相談支援センター)」が33.0%、「民間の機関 (弁護士会、民間シェルター、NPOなど)」が24.8%となっている。

性別にみると、ほとんどの項目で男性の方が認知度は高く、「法務局・地方法務局、人権擁護委員」では32.5%と16.2ポイント、「警察署」で68.3%と7.1ポイントの差となっている。逆に、「女性相談所 (配偶者暴力相談支援センター)」では女性の方が認知度は高く、35.8%で5.8ポイント高くなっている。

(図7-4)

図7-4-1 性年齢別 配偶者の暴力についての相談窓口として知っているもの



《ポイント》

- 「女性相談所」は女性では30歳代、男性では60歳代で認知度が高い。
- 「法務局・地方法務局、人権擁護委員」は男女とも高年齢層ほど認知度が高い。

性年齢別にみると、「警察署」は女性では、20歳代、70歳以上を除く年代で6割以上、男性では60歳代以上を除く年代で7割以上となっている。「女性相談所（配偶者暴力相談支援センター）」は女性の30歳代で43.6%と最も高くなっている。「法務局・地方法務局、人権擁護委員」では男女とも、年代が上がるほど割合は高くなっている。（図7-4-1）

表7-4-2 居住地域別 配偶者の暴力についての相談窓口として知っているもの

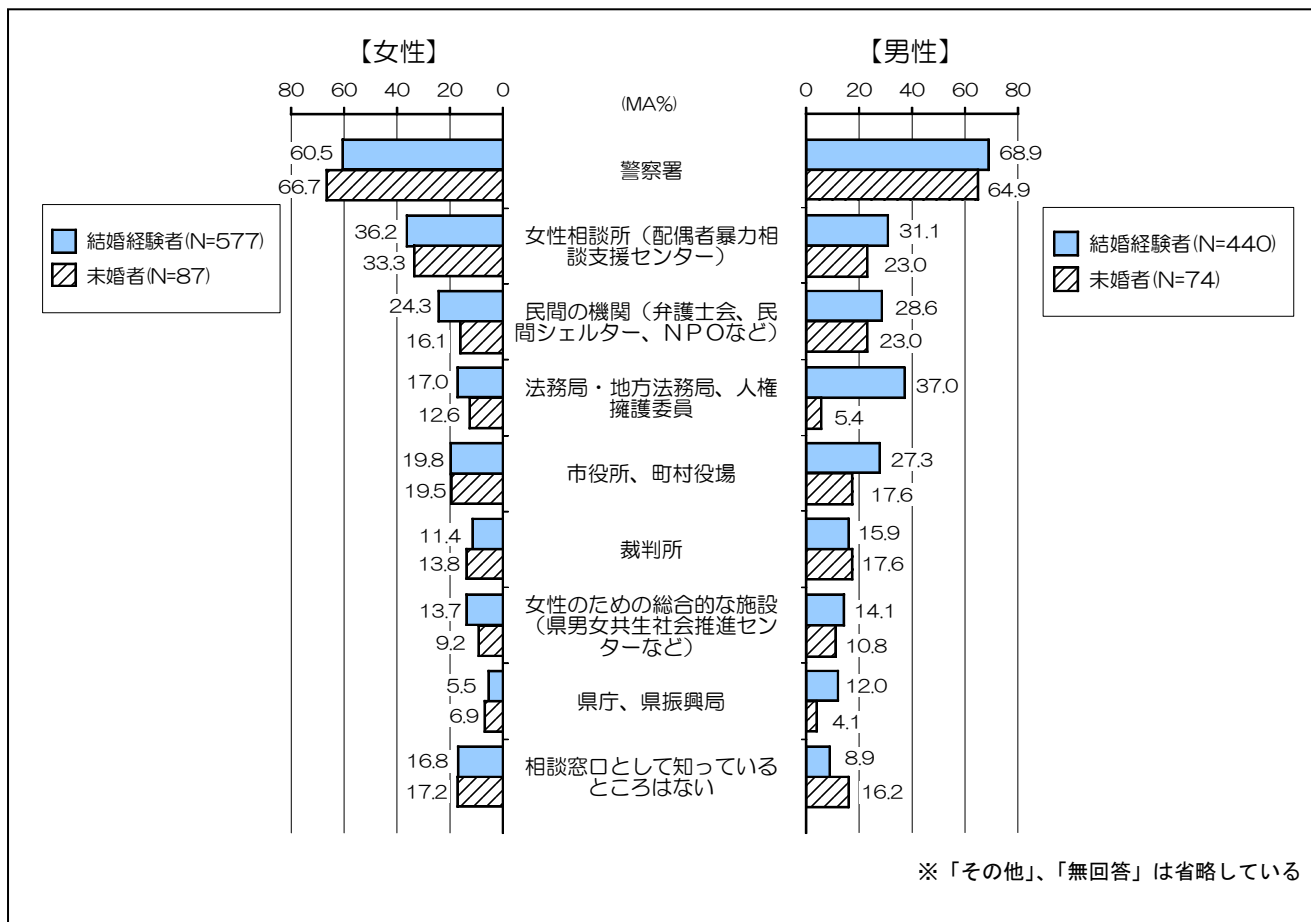
	全体	警察署	女性相談所 (配偶者暴力相 談支援センター)	民間の機関 (シェルター、 NPOなど)	法務局・地方 法務局、人権 擁護委員	市役所、 町村役場	裁判所	女性のための 総合的な施設 (男女共生社 会推進セン ターなど)	県庁、 県振興局	その他	相談窓口として 知らない	無回答
(MA%)												
女性												
和歌山市	216	61.6	39.8	25.0	9.3	13.0	8.8	16.7	3.7	0.5	18.5	2.3
海南市・紀美野町	54	51.9	38.9	25.9	16.7	27.8	11.1	9.3	7.4	0.0	18.5	5.6
岩出市・紀の川市	75	58.7	38.7	20.0	13.3	13.3	10.7	13.3	6.7	0.0	17.3	5.3
橋本市・伊都郡	64	60.9	31.3	21.9	28.1	32.8	18.8	4.7	6.3	0.0	17.2	1.6
有田市・有田郡	52	63.5	26.9	23.1	19.2	25.0	17.3	13.5	11.5	0.0	13.5	3.8
御坊市・日高郡	62	71.0	30.6	19.4	24.2	16.1	9.7	12.9	8.1	0.0	16.1	3.2
田辺市・西牟婁郡	85	58.8	31.8	27.1	12.9	23.5	11.8	10.6	3.5	0.0	17.6	1.2
新宮市・東牟婁郡	58	63.8	37.9	19.0	27.6	24.1	13.8	17.2	5.2	0.0	10.3	5.2
男性												
和歌山市	153	62.1	32.0	26.8	23.5	17.0	12.4	9.2	7.8	0.7	13.7	9.8
海南市・紀美野町	54	77.8	35.2	33.3	37.0	29.6	20.4	27.8	14.8	0.0	3.7	5.6
岩出市・紀の川市	63	79.4	25.4	42.9	33.3	34.9	17.5	11.1	11.1	0.0	4.8	7.9
橋本市・伊都郡	60	65.0	33.3	23.3	36.7	28.3	16.7	18.3	13.3	0.0	10.0	10.0
有田市・有田郡	34	67.6	29.4	26.5	32.4	17.6	14.7	14.7	11.8	0.0	8.8	8.8
御坊市・日高郡	44	75.0	22.7	27.3	50.0	40.9	20.5	22.7	11.4	2.3	4.5	4.5
田辺市・西牟婁郡	65	69.2	32.3	24.6	27.7	27.7	20.0	9.2	15.4	0.0	10.8	4.6
新宮市・東牟婁郡	42	59.5	21.4	11.9	40.5	21.4	11.9	4.8	4.8	0.0	14.3	11.9

《ポイント》

- 「女性相談所」は、女性では「橋本市・伊都郡」を除いて、「警察署」に次いで認知度が高い。
- 「法務局・地方法務局、人権擁護委員」は、「御坊市・日高郡」の男性で半数、「民間の機関」は「岩出市・紀の川市」の男性で4割以上と高い。

居住地域別にみると、男女とも全ての地域で「警察署」が最も高くなっている。女性では、「橋本市・伊都郡」を除く全ての地域で2番目に「女性相談所（配偶者暴力相談支援センター）」をあげている。「橋本市・伊都郡」では「市役所、町村役場」で32.8%と他地域に比べ高くなっている。男性では「御坊市・日高郡」で「法務局・地方法務局、人権擁護委員」が50.0%、「岩出市・紀の川市」で「民間の機関（弁護士会、民間シェルター、NPOなど）」が42.9%と他地域に比べ高くなっている。（表7-4-2）

図7-4-3 結婚の有無別 配偶者の暴力についての相談窓口として知っているもの



《ポイント》

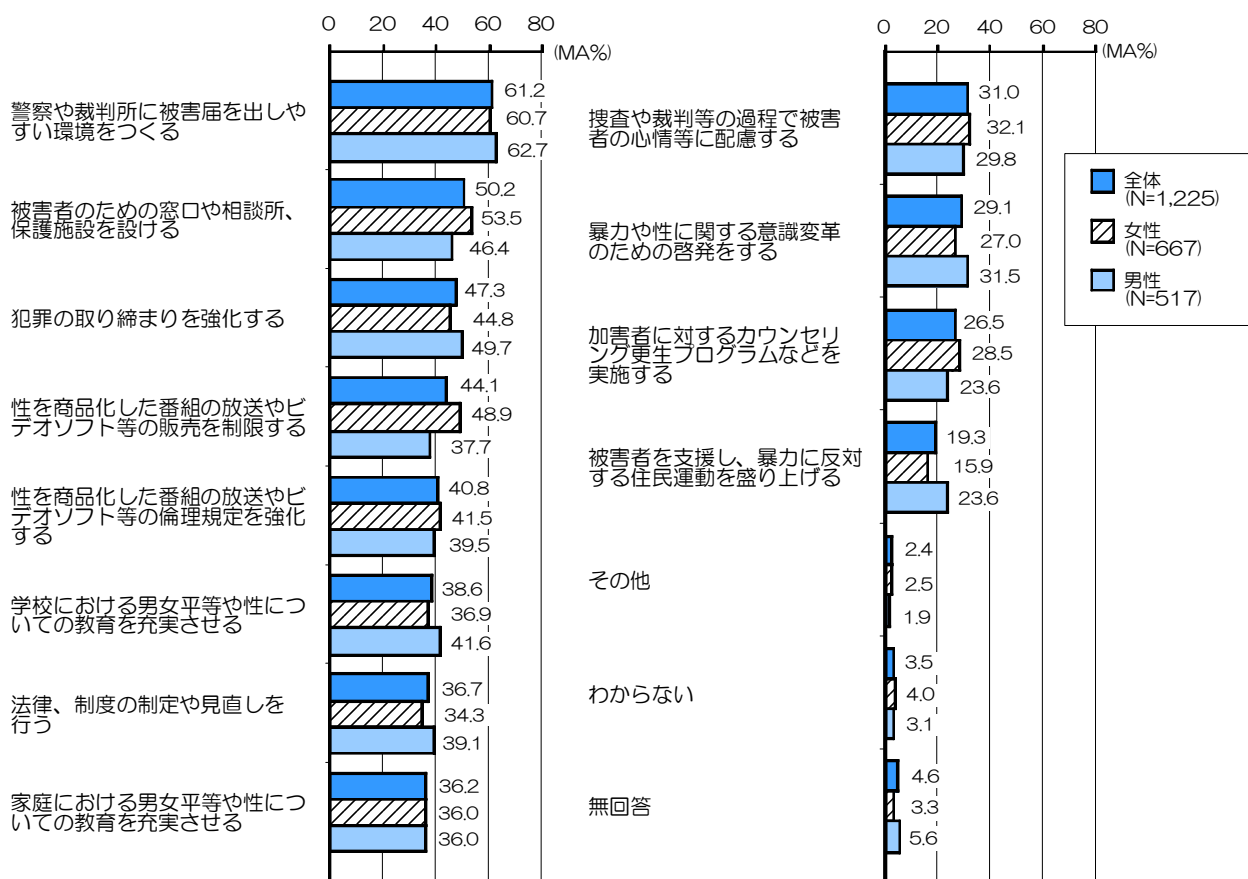
- 男性はほとんどの項目で結婚経験者の方が認知度は高く、特に「法務局・地方法務局、人権擁護委員」で認知度の差が大きい。
- 女性は「警察署」、「裁判所」などで未婚者の方が認知度は高いが、それ以外では結婚経験者の方が若干高い。

結婚の有無別にみると、「警察署」は、女性では未婚者の方が若干高く、男性は結婚経験者が高くなっている。男性では、ほとんどの項目で結婚経験者の方が割合は高く、「法務局・地方法務局、人権擁護委員」では 31.6 ポイント、「市役所、町村役場」では 9.7 ポイント、「女性相談所（配偶者暴力相談支援センター）」では 8.1 ポイント結婚経験者の方が高くなっている。女性では「民間の機関（弁護士会、民間シェルター、NPOなど）」で 8.2 ポイント結婚経験者の方が高くなっている。（図7-4-3）

7-5 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

問35 最近、性犯罪や、配偶者や恋人から受ける暴力であるドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

図7-5 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



《ポイント》

- 「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」という意見が、男女ともに6割以上と最も多い。
- 「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」などの意見は女性の方が多い。

性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なことについて、全体では、「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が61.2%で最も高く、次いで、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」が50.2%、「犯罪の取り締まりを強化する」が47.3%となっている。

性別にみると、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」で7.1ポイント、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」では11.2ポイント女性が高くなっている。男性は「犯罪の取り締まりを強化する」で4.9ポイント、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」で4.7ポイント、「法律、制度の制定や見直しを行う」で4.8ポイント女性よりも高くなっている。

(図7-5)

表7-5-1 性年齢別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

	全体	や警察や裁判所 に被害届を出し やすい環境をつ つくる	所被害者のた めの窓口や相 談	犯罪の取り締 まりを強化す る	性を商品化し た番組の放送 を制限する	性を商品化し た番組の放送 を制限する	学校における 男女平等や性 教育を充実さ せる	法律、制度の 制定や見直し を	家庭における 男女平等や性 教育を充実さ せる	捜査や裁判等 の過程で被害 者の	暴力や性に関 する意識変革 の	加害者に対す るカウンセリング などを実施す る	被害者を支 援し、暴力に 対する	その他	わからない	(MA%) 無回答
--	----	--------------------------------------	-----------------------	-----------------------	---------------------------	---------------------------	----------------------------------	-----------------------	----------------------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------------------	------------------------	-----	-------	--------------

女性

20歳代	76	59.2	40.8	48.7	19.7	22.4	22.4	51.3	28.9	32.9	26.3	31.6	13.2	6.6	5.3	0.0
30歳代	117	57.3	58.1	41.9	42.7	38.5	30.8	42.7	29.9	45.3	23.9	41.0	12.0	6.8	6.8	0.9
40歳代	118	66.9	50.8	42.4	49.2	42.4	39.8	35.6	40.7	34.7	29.7	31.4	5.1	1.7	3.4	1.7
50歳代	125	65.6	64.0	42.4	54.4	42.4	40.8	30.4	34.4	32.0	28.0	25.6	14.4	0.0	4.0	1.6
60歳代	147	56.5	50.3	46.9	61.2	49.7	36.7	27.9	35.4	21.8	23.1	17.0	21.1	0.0	1.4	4.1
70歳以上	83	57.8	51.8	49.4	54.2	47.0	49.4	22.9	48.2	26.5	32.5	28.9	32.5	2.4	4.8	13.3

男性

20歳代	50	64.0	52.0	66.0	26.0	28.0	40.0	50.0	30.0	36.0	34.0	36.0	22.0	2.0	4.0	0.0
30歳代	61	62.3	42.6	50.8	26.2	34.4	32.8	39.3	41.0	37.7	29.5	21.3	21.3	1.6	4.9	0.0
40歳代	69	59.4	43.5	47.8	33.3	29.0	37.7	47.8	34.8	20.3	34.8	30.4	15.9	4.3	1.4	4.3
50歳代	98	74.5	52.0	45.9	35.7	40.8	42.9	33.7	34.7	32.7	27.6	28.6	28.6	1.0	3.1	0.0
60歳代	119	63.0	52.1	52.1	42.9	47.1	45.4	43.7	37.8	36.1	36.1	19.3	27.7	3.4	2.5	5.9
70歳以上	120	54.2	37.5	44.2	47.5	44.2	44.2	29.2	35.8	20.0	28.3	15.8	21.7	0.0	3.3	15.8

《ポイント》

- 「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」という意見は女性では 40～50 歳代で、男性は 50～60 歳代で多くなっている。
- 女性では、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」が、60 歳代で 6 割以上と高くなっている。
- 男性では、「犯罪の取り締まりを強化する」が、20 歳代で 6 割以上と高くなっている。

性年齢別にみると、女性では、30歳代、60歳代を除く年代で「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高くなっている。30歳代では「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」が58.1%、60歳代では「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」が61.2%と最も高くなっている。男性では20歳代を除く年代で「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高くなっている。20歳代は「犯罪の取締まりを強化する」が66.0%と最も高くなっている。(表7-5-1)

表7-5-2 居住地域別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

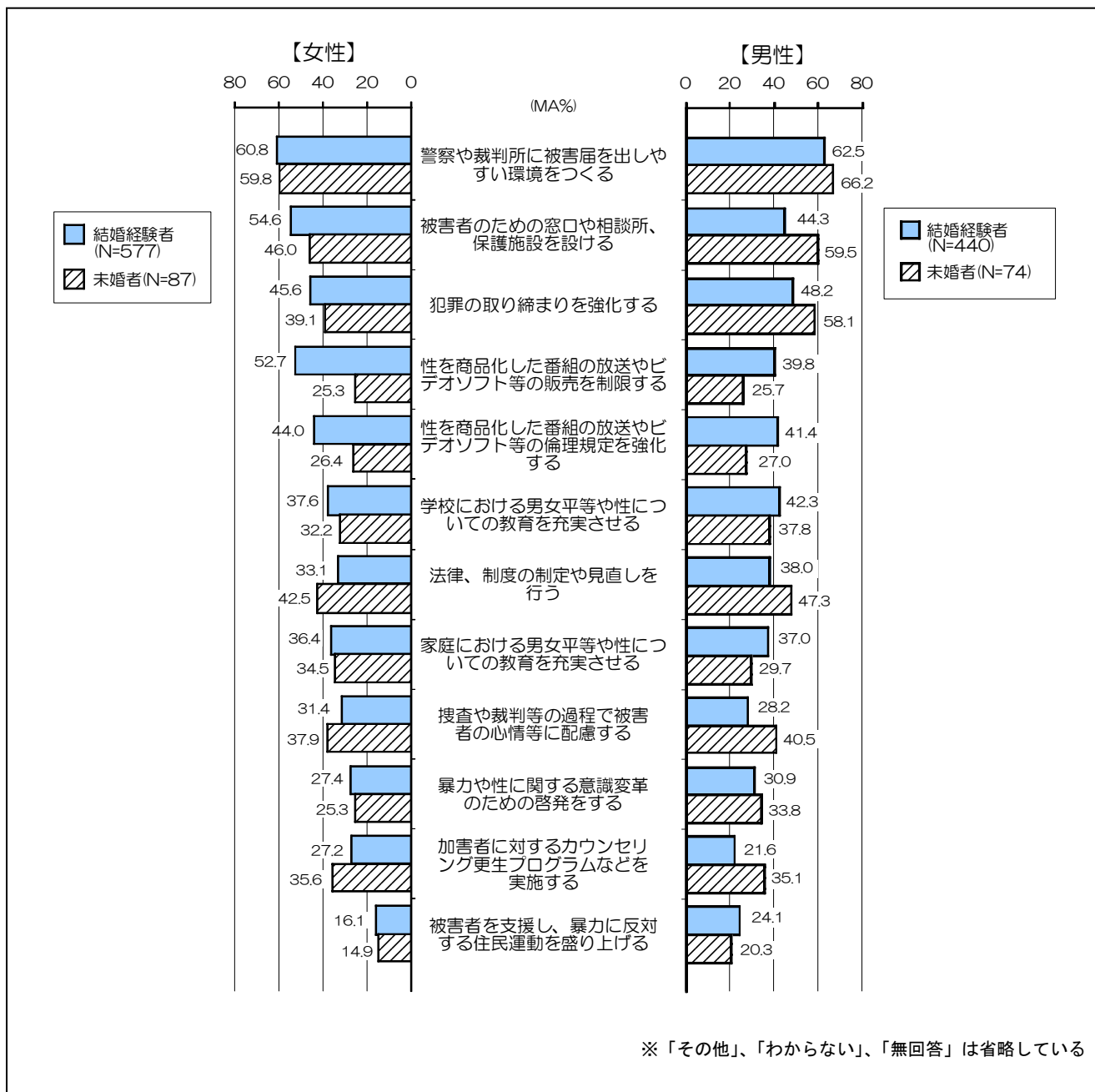
	全体	警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる	被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける	犯罪の取り締まりを強化する	性商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する	性商品化した番組の放送やビデオソフト等の倫理規定を強化する	性商品化した番組の放送やビデオソフト等の倫理規定を強化する	学校における男女平等や性を学ぶための教育を充実させる	法律、制度の制定や見直しを行う	家庭における男女平等や性を学ぶための教育を充実させる	捜査や裁判等の過程で被害者の心情等に配慮する	暴力や性に関する意識変革のための啓発をする	加害者に対するプログラムなどを実施する	被害者を支援し、暴力に反する住民運動を盛り上げる	その他	わからない	(MA%) 無回答
女性																	
和歌山市	216	63.0	53.2	45.8	48.1	42.6	37.0	39.4	37.5	37.0	28.7	31.0	17.1	3.2	3.7	2.3	
海南市・紀美野町	54	57.4	55.6	38.9	46.3	50.0	42.6	24.1	37.0	29.6	24.1	25.9	13.0	3.7	7.4	1.9	
岩出市・紀の川市	75	60.0	58.7	52.0	54.7	41.3	41.3	38.7	38.7	24.0	22.7	29.3	12.0	1.3	0.0	5.3	
橋本市・伊都郡	64	57.8	56.3	31.3	46.9	40.6	42.2	32.8	40.6	32.8	31.3	28.1	21.9	6.3	4.7	3.1	
有田市・有田郡	52	57.7	53.8	48.1	53.8	40.4	40.4	32.7	34.6	19.2	26.9	30.8	17.3	0.0	1.9	3.8	
御坊市・日高郡	62	62.9	51.6	50.0	43.5	37.1	30.6	32.3	29.0	37.1	21.0	24.2	17.7	0.0	9.7	6.5	
田辺市・西牟婁郡	85	62.4	52.9	45.9	47.1	35.3	30.6	30.6	31.8	34.1	31.8	28.2	15.3	2.4	1.2	3.5	
新宮市・東牟婁郡	58	56.9	46.6	43.1	53.4	46.6	31.0	29.3	34.5	29.3	22.4	22.4	10.3	1.7	6.9	1.7	
男性																	
和歌山市	153	64.7	43.1	48.4	40.5	44.4	42.5	34.0	35.9	28.8	31.4	28.1	23.5	1.3	1.3	7.8	
海南市・紀美野町	54	64.8	42.6	55.6	40.7	37.0	57.4	51.9	37.0	37.0	27.8	24.1	18.5	1.9	1.9	3.7	
岩出市・紀の川市	63	61.9	46.0	50.8	41.3	39.7	36.5	33.3	39.7	30.2	34.9	28.6	28.6	1.6	7.9	4.8	
橋本市・伊都郡	60	58.3	55.0	46.7	46.7	46.7	41.7	33.3	36.7	35.0	28.3	18.3	26.7	0.0	3.3	6.7	
有田市・有田郡	34	58.8	32.4	50.0	23.5	26.5	38.2	61.8	32.4	26.5	23.5	20.6	20.6	2.9	2.9	2.9	
御坊市・日高郡	44	63.6	40.9	61.4	31.8	38.6	38.6	43.2	43.2	29.5	45.5	18.2	20.5	4.5	2.3	2.3	
田辺市・西牟婁郡	65	64.6	60.0	44.6	30.8	36.9	36.9	41.5	33.8	26.2	27.7	18.5	21.5	1.5	0.0	4.6	
新宮市・東牟婁郡	42	57.1	45.2	42.9	35.7	28.6	38.1	33.3	26.2	23.8	33.3	23.8	26.2	4.8	9.5	7.1	

《ポイント》

- 女性は全ての地域で「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も多い。
- 男性は「被害届を出しやすい環境をつくる」以外では、「有田市・有田郡」で「法律、制度の制定や見直し」が必要との意見が多い。

居住地域別にみると、女性では、全ての地域で「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高く、2番目に「新宮市・東牟婁郡」を除く全地域で「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」があげられている。「岩出市・紀の川市」、「新宮市・東牟婁郡」、「有田市・有田郡」では「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」が半数以上となっている。男性では「有田市・有田郡」を除く全地域で「警察や裁判所に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高くなっている。「有田市・有田郡」では「法律、制度の制定や見直しを行う」が61.8%、「海南市・紀美野町」では「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」が57.4%と高くなっている。(表7-5-2)

図7-5-3 結婚の有無別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

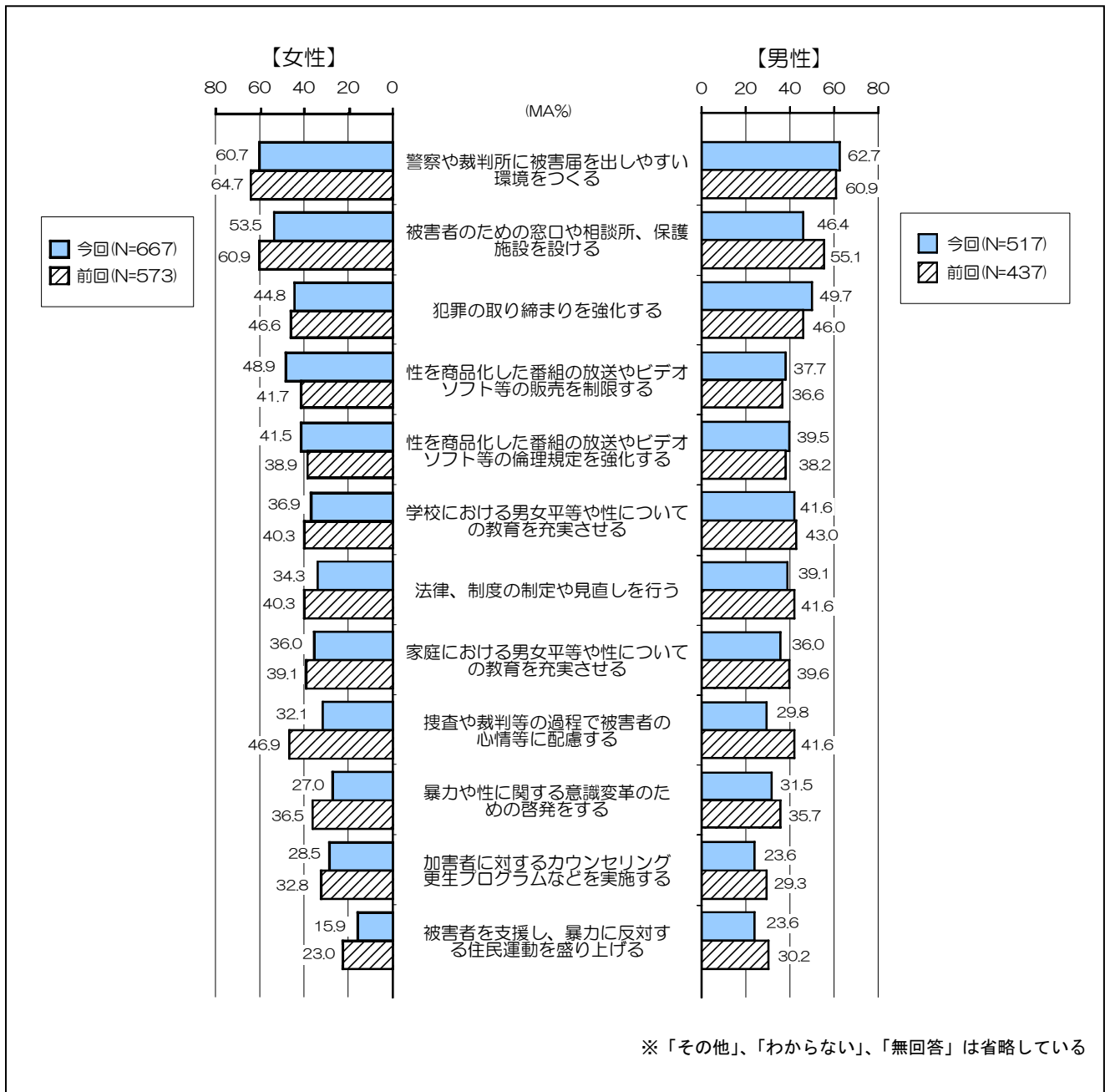


《ポイント》

- 上位3項目は、女性では結婚経験者、男性では未婚者の方が割合が高い。
- 「性を商品化したビデオ等の販売制限」、「性を商品化したビデオ等の倫理強化」は男女ともに結婚経験者で割合が高い。

結婚の有無別にみると、女性では、ほとんどの項目で結婚経験者の方が割合は高く、特に、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」で27.4ポイント、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の倫理規定を強化する」で17.6ポイントと未婚者との差が大きくなっている。男性では、上位3項目で未婚者の方が割合は高く、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」では15.2ポイント結婚経験者より高くなっている。(図7-5-3)

図7-5-4 前回調査比較 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



《ポイント》

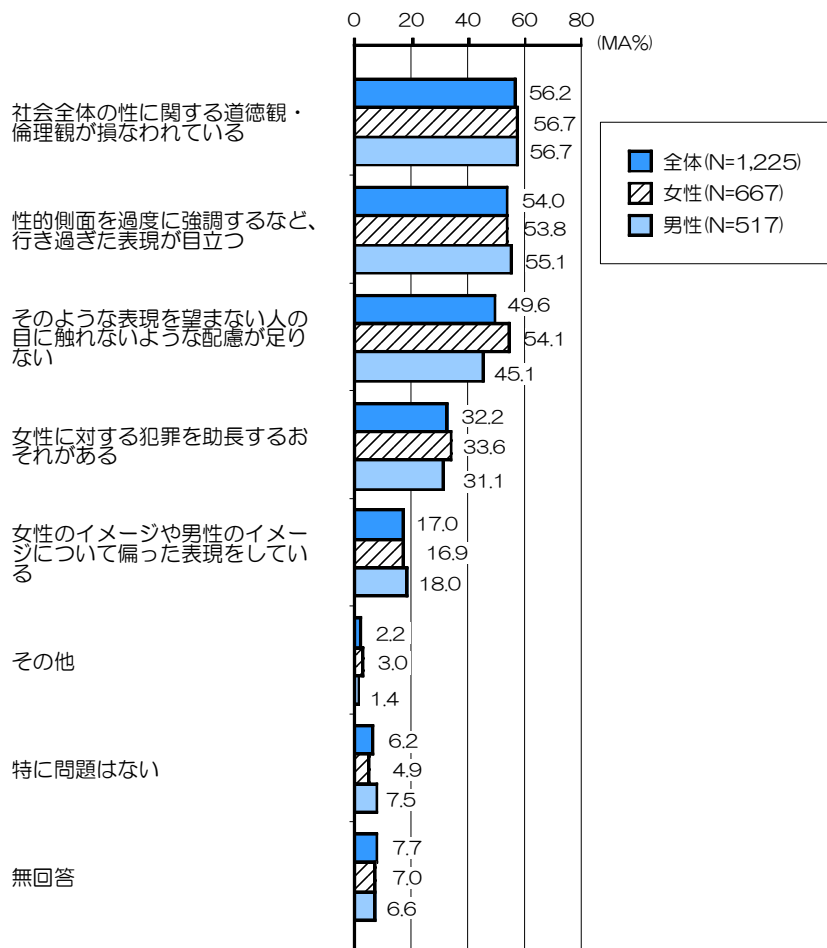
○「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」や「倫理規定を強化する」と回答した人の割合は、男女とも増加している。

前回調査と比較すると、女性ではほとんどの項目で減少している。前回調査から増加したのものとして、「性を商品化した番組の放送やビデオソフト等の販売を制限する」が 7.2 ポイント増加している。「捜査や裁判等の過程で被害者の心情等に配慮する」では 14.8 ポイント、「暴力や性に関する意識変革のための啓発をする」で 9.5 ポイント、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」で 7.4 ポイント前回調査よりも減少している。男性は、前回調査から増加したのものとして、「犯罪の取り締まりを強化する」が 3.7 ポイント増加している。「捜査や裁判等の過程で被害者の心情等に配慮する」では 11.8 ポイント、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を設ける」で 8.7 ポイント減少しており、他の項目と比べ、差が大きい。(図7-5-4)

7-6 メディアにおける性や暴力表現についての考え

問36 新聞、雑誌、テレビなどメディアにおける性や暴力の表現について、あなたはどのように思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

図7-6 メディアにおける性や暴力表現についての考え



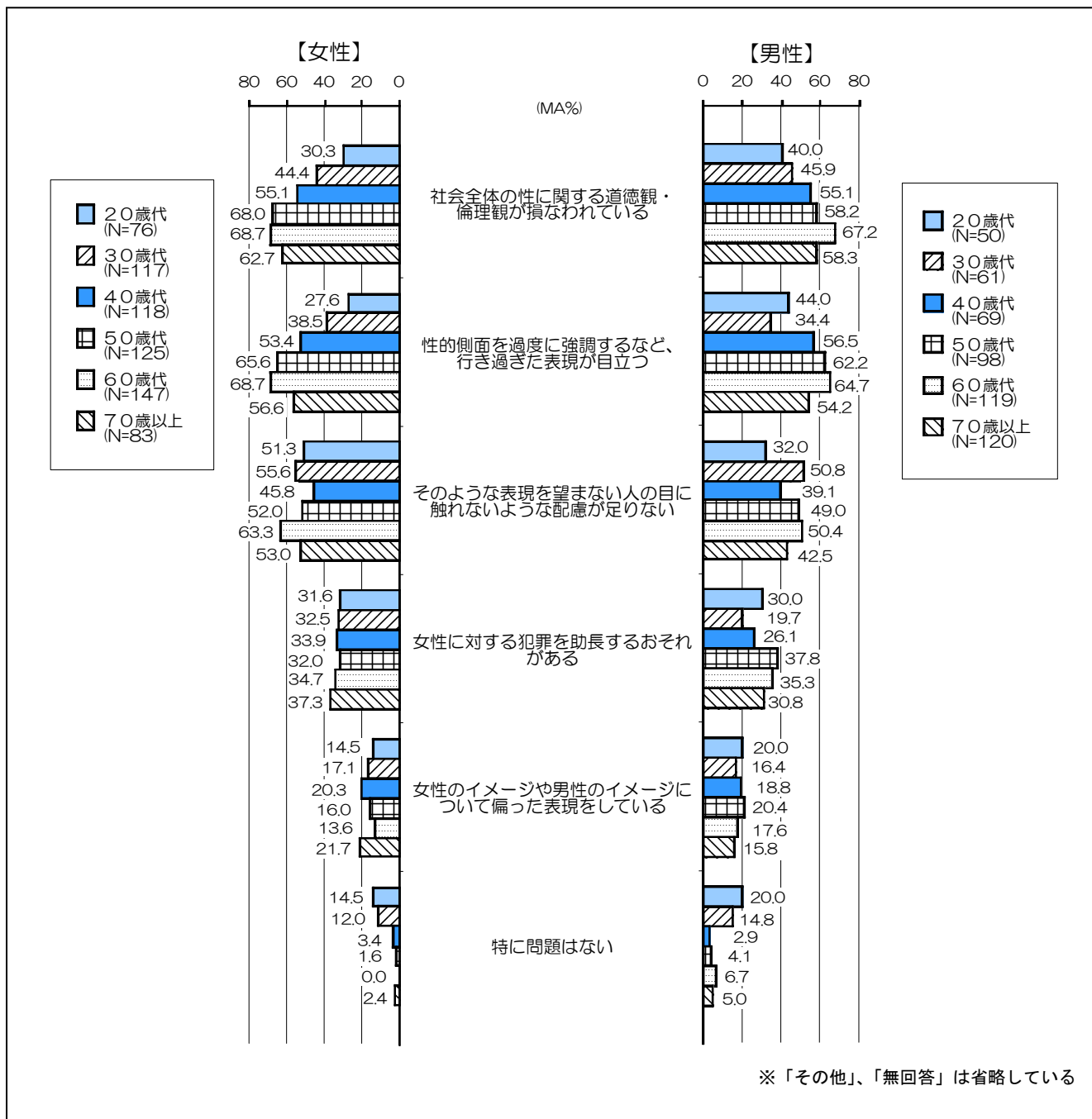
《ポイント》

○男女とも、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」という意見が半数を超えている。

メディアにおける性や暴力表現についての考えについて、全体では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が56.2%と最も高く、次いで、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が54.0%、「そのような表現を望まない人の目に触れないような配慮が足りない」が49.6%と半数前後となっている。それ以下の項目はいずれも4割以下にとどまっている。

性別にみると、「そのような表現を望まない人の目に触れないような配慮が足りない」で女性が9.0ポイント高くなっている以外に目立った男女差のある項目は見当たらない。(図7-6)

図7-6-1 性年齢別 メディアにおける性や暴力表現についての考え



《ポイント》

○男女とも高年齢層ほど「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」という意見は多くなっている。

性年齢別にみると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」では男女とも60歳代で最も高くいずれも6割以上で、若年層ほど割合は低くなっている。「そのような表現を望まない人の目に触れないような配慮が足りない」では男女ともに30歳代、60歳代が高くなっている。また、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」では、20歳代で男性が44.0%であるのに対し、女性は27.6%となっている。一方、「そのような表現を望まない人の目に触れないような配慮が足りない」では、男性の20歳代で32.0%に対し、女性では51.3%と差が大きくなっている。(図7-6-1)